



枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、寒さに負けず子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。今月も市内で行われた活動を紹介します。

### ～子供たちが「子火」を運んで「親火」に点火～ 田布川集落 鬼火焚き

金山地区の田布川集落で1月8日に毎年恒例の「鬼火焚き」が行われ、「コロナ退散」「無病息災」を願う大きな炎が燃え上がりました。

鬼火焚きとは、竹で組まれたやぐらとともに正月飾りを焼いて、正月飾りについてきた悪霊（鬼）を追い払う鹿児島島の伝統行事です。以前は県内で正月の七日に行われ、鬼火焚きの残り

子火を持って集落内を練り歩く子供たち  
火で餅を焼いて健康を祈願していたとのことです。

田布川集落内の田んぼに鬼火焚きのやぐらが生まれ、やぐらを囲むあぜ道には約100個の杉トーチがともされました。子供たち51人が子火を持って集落内を練り歩き、やぐら前の広場で待ち構える大人たちのたいまつに火をともし大役を務めました。

その後、大人たちの親火でやぐらに火を付け、鬼火焚きの炎が勢いよく燃え上がりました。

燃え盛る炎をバックに「火の神乙女太鼓 爽」の太鼓演奏と「枕崎舞炎鯉」のよさこい踊りが披露され、観衆を楽しませました。炎と競うように花火も上がり、大きな歓声が上がっていました。



燃え上がる鬼火焚きのやぐら



子火を持って集落内を練り歩く子供たち

### ～青少年講座で新春の書き初め～ 枕崎地区公民館

枕崎地区公民館の青少年講座「書き初め」が、1月6日に中山香一郎さんの指導で枕崎地区公民館で行われ、小学生3人が参加して今年目標などを毛筆で書き上げました。



指導の中山さん(左)と練習している児童

子供たちには前もって書き初めで書く言葉を考えてきてもらい、当日中山さんが言葉と名前の手本を書いて、手を取りながら毛筆で文字を書く指導を行いました。

初めて筆を持つ小学1年生の児童もいましたが、「元気」「卵」「光」と、3人それぞれ毛筆で書く文字を練習し、満足のいく作品を書き上げていました。

参加した児童は、「もっと習字を習いたい」と楽しく書道に取り組めた様子で、あっという間の3時間の書き初めでした。

### ～持久走大会で 県下一周駅伝選手が 子供たちの伴走～ 別府小学校

別府小学校では12月2日に校内持久走大会を開催し、当日は県下一周駅伝川辺チームの石山大輝さん(鳳凰高校教員)、西元光樹さん(南薩地域振興局)、藤崎泰裕さん(南薩教育事務所)の3選手に子供たちの伴走をしていただきました。

持久走大会は、1・2年生800m、3・4年生1200m、5・6年生1500mですが、それぞれ男女別にレースがあり、全6レースで3名の方々に伴走を務めていただいたことにより、たくさんの好記録を生み出すことができました。

子供たちは駅伝選手の軽快な走りに驚きながらも、頑張っていて一緒に走り、保護者・地域の方々から、多くの声援を受けていました。

これまでの練習の成果を十分に出し切ることができた子供、できなかった子供もいたと思いますが、これから先も努力をし続けることがとても大切だということを駅伝選手から学びました。



1・2年生の女子児童と伴走する駅伝選手

1月24日からの「全国学校給食週間」に合わせて、枕崎市内の学校では地元の食材を生産する方を招いて、生産者との交流授業が行われました。桜山小学校では、3年生が枕崎牛の生産者である山下さんに、4年生が鯉節生産者(水産加工

### ～学校給食週間に食育の授業～ 桜山小学校



成長に合わせた餌について説明する山下さん

組合)の高倉さんに来ていただき、それぞれ給食センターの坂元先生と一緒に「地元の食材について知り、感謝して食べよう」をテーマに話をしてもらいました。

山下さんからは「枕崎牛は福岡県に出荷して、命をいただいて牛肉にして、全国に供給している。毎日休まずに牛の世話をし、成長に合わせて餌を変えたり、牛肉がおいしくなるようにいろいろな工夫をしている。」との話がありました。

子供たちに大人気の「枕崎牛サイコロステーキ」の給食は、1回で枕崎牛を100キロ使って調理しているとのことです。

高倉さんからは「鯉節を作るには多くの手間と時間がかかっている。鯉の切り身から一本一本骨を抜いたり、燻して、カビ付けと天日乾燥を6カ月以上繰り返して本枯節が出来上がる。」との話がありました。

枕崎市では地元の食材を知ってほしいとの思いを込めて、毎月24日の「節(ふし)の日」に「ふしの日給食」を実施しており、枕崎水産加工組合から毎月7キロの削り節(本枯節)が無償提供され、本枯節を使った様々な料理を作っています。

坂元先生からは、「枕崎牛を育てている方、鯉節を作っている方、給食センターの調理員、運転手も含めて多くの人が給食を届けている。みんなも作ってくれた人に感謝して給食を残さずに食べてほしい。」と子供たちに呼びかけていました。



本枯節について説明する高倉さん

学校応援団ボランティア 募集中!

詳しくは  
生涯学習課まで

TEL76-1286